

⑫ 公開実用新案公報 (U) 平3-43419

⑬Int.Cl.⁵

B 65 D 5/44
 // A 24 F 15/12
 B 65 D 5/66
 85/10

識別記号

301

府内整理番号

B 6540-3E
 8114-4B
 6671-3E
 8921-3E

⑭公開 平成3年(1991)4月23日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全1頁)

⑮考案の名称 たばこ包装箱

⑯実 願 平1-103455

⑯出 願 平1(1989)9月2日

⑰考案者 竹村政子 千葉県千葉市春日2-7-5 401

⑰考案者 田中元一 千葉県千葉市千城台東2-39、3-102号

⑰出願人 竹村政子 千葉県千葉市春日2-7-5 401

⑰出願人 田中元一 千葉県千葉市千城台東2-39、3-102号

⑰代理人 弁理士今誠

⑲実用新案登録請求の範囲

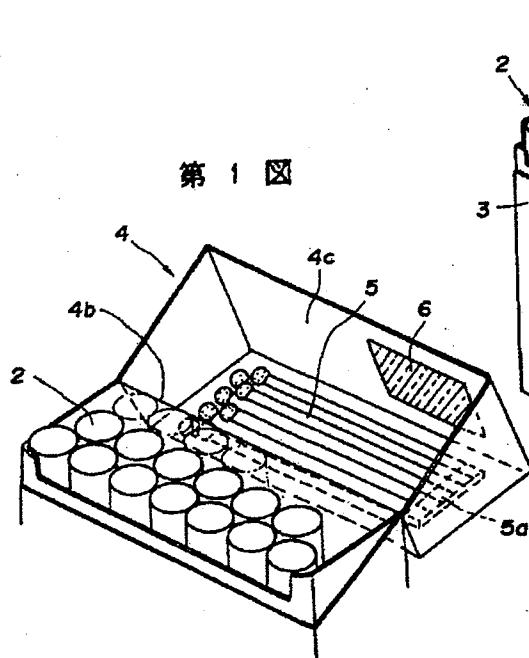
箱体のたばこ収容部上面に、収容たばこ上端との間にマツチを収容するにたる空間を形成するようヒンジ式上蓋を設け、その上蓋内壁上面に切り離し式横並びマツチを長手方向にその基部を接着固定するとともに、上蓋の回動ヒンジ部と反対側側面のマツチ基部取付位置側に、マツチ擦材面を設けたことを特徴とするたばこ包装箱。

図面の簡単な説明

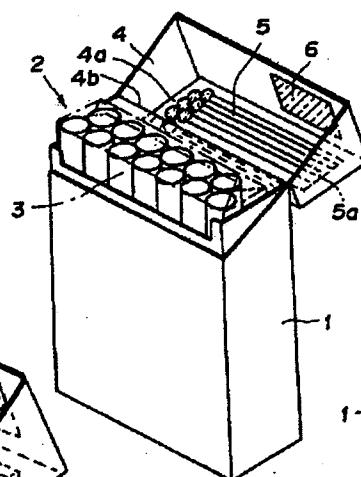
第1図は本考案によるたばこ包装容器の要部の拡大斜視図、第2図は蓋を開いた状態の全体斜視図、第3図は蓋を閉じた状態の斜視図、である。

1……箱体、2……たばこ、3……銀紙、4…
 …上蓋、4 a……空間、4 b……ヒンジ部、4 c
 ……側壁、5……マツチ、5 a……マツチ基部、
 6……マツチ擦材面。

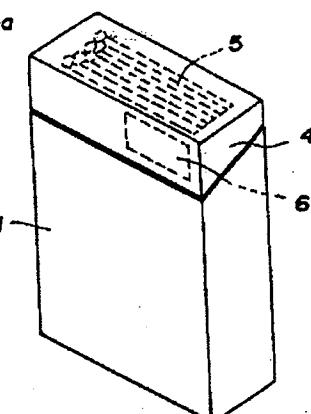
第2図



第1図



第3図



公開実用平成3-43419

Pr. 3

⑨日本国特許庁(JP)

⑩実用新案出願公開

⑪公開実用新案公報(U)

平3-43419

⑫Int.Cl.³

B 65 D 5/44
// A 24 F 15/12
B 65 D 5/66
85/10

識別記号

3 0 1

府内整理番号

B 6540-3E
8114-4B
6671-3E
8921-3E

⑬公開 平成3年(1991)4月23日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全頁)

⑭考案の名称 たばこ包装箱

⑮実願 平1-103455

⑯出願 平1(1989)9月2日

⑰考案者 竹村 政子 千葉県千葉市春日2-7-5 401

⑱考案者 田中 元一 千葉県千葉市千城台東2-39、3-102号

⑲出願人 竹村 政子 千葉県千葉市春日2-7-5 401

⑳出願人 田中 元一 千葉県千葉市千城台東2-39、3-102号

㉑代理人 弁理士 今誠

明細書

1. 考案の名称

たばこ包装箱

2. 実用新案登録請求の範囲

箱体のたばこ収容部上面に、収容たばこ上端との間にマッチを収容するにたる空間を形成するようヒンジ式上蓋を設け、その上蓋内壁上面に切り離し式横並びマッチを長手方向にその基部を接着固定するとともに、上蓋の回動ヒンジ部と反対側側面のマッチ基部取付位置側に、マッチ擦材面を設けたことを特徴とするたばこ包装箱。

3. 考案の詳細な説明

[産業上の利用分野]

本考案は、箱体のたばこ収容部上面に空室を形成したヒンジ式上蓋を設けた形式のたばこ収納容器に関するものである。

[従来の技術]

従来より一般に販売されているたばこ包装容器には、たばこが収納されているだけであるので、たばこを吸うためには、点火器具が必要となる。

公開実用平成 3-43419

このため、ライター、マッチなどを別に準備しておく必要がある。しかし、たばこと点火器具とを別々に常時持参してあるくのが不便であるので、ライター付たばこケースも考案され、また、たばこ容器自体にマッチ棒を取り付たものも考案されている。

[考案が解決しようとする課題]

しかしながら、ライター付たばこケースの場合は、購入したたばこをケースに入れ直す必要があるばかりでなく、ケースを持参していない場合もあるので不便であり、また、マッチ棒を取り付けたたばこ容器を作成する場合は、それに適した特別な形の容器を新たに製作する必要がある。

本考案は、従来のたばこ包装容器を特に作り直すことなく、簡単な寸法の変更により、マッチ付たばこ包装容器を得ようとするものである。

[課題を解決するための手段]

本考案は上記課題を解決するために、箱体のたばこ収容部上面に、収容たばこ上端との間にマッチを収容するにたる空間を形成するようヒンジ式

上蓋を設け、その上蓋内壁上面に切り離し式横並びマッチを長手方向にその基部を接着固定するとともに、上蓋の回動ヒンジ部と反対側側面のマッチ基部取付位置側に、マッチ擦材面を設けて構成したものである。

〔作用〕

本考案においては、ヒンジ式上蓋内壁上面に取付たマッチを切り離して、上蓋の回動ヒンジ部と反対側側面のマッチ基部取付位置側に設けたマッチ擦材面を利用してマッチを擦り、発火させてたばこに点火するようとする。

〔実施例〕

第1図は本考案によるたばこ包装容器の要部の拡大斜視図、第2図は蓋を開いた状態の全体斜視図、第3図は蓋を閉じた状態の斜視図、である。

図面に示すように、たばこ包装箱1には、たばこ2が通常のように銀紙3に包まれた状態で収容されており、その上蓋4はヒンジ式となっており、蓋を開じたとき、たばこ上端との間に、切り離し式横並びマッチ5を上蓋裏面にその基端5aで接

着固定収容できる程度の空間 4a が形成されるよう、通常の上蓋よりは長目に形成されている。

このように、箱体 1 のたばこ収容部 1a 上面に空室を形成したヒンジ式上蓋 4 を設け、その上蓋内壁上面に、サービス用マッチとして頒布されているような形式の切り離し式横並びマッチ 5 を長手方向に、その基部 5a を接着固定するとともに、上蓋の回動ヒンジ部 4b と反対側側面 4c のマッチ基部取付位置側に、マッチ擦材面 6 を設けてあるので、箱体 1 よりたばこを取り出してたばこに火を付けるときは、上蓋 4 裏面に取付てあるマッチ 5 を 1 本切り離して、マッチ擦材面 6 を底側より上側に向かって擦ると、マッチが発火してたばこを吸うことができる。マッチの本数を多く収容するためには、マッチの軸を重ね合わせるようにすればよく、その際に、マッチの軸の長さを下側ほど長くしておけばマッチの頭の部分が重ならず、切り取り使用にも便利となる。

なお、マッチ先端の薬剤が脱落してたばこに付着することができないようにする必要があるが、通常

の包装状態では、たばこは銀紙で包まれているので、そのような恐れはないが、もし、そのような事態がありうるとするなら、マッチ部分を携帯用ティッシュの包装のように包み紙で被覆するようになるとよい。

[考案の効果]

本考案によれば、マッチ棒を取付けのに、単に上蓋4を少し長くするだけで、マッチ収容部分を形成することができ、また、上蓋の回動ヒンジ部4bと反対側側面4cのマッチ基部取付位置側に、マッチ擦材面6を設けたので、マッチ発火部分と自然に接触する事態が生ずることがない。さらに、マッチ擦材面6を底側より上側に向かってマッチを擦るようにすることにより、発火のためのマッチの擦り付ける動きのストロークを長く、スムーズに行うことができ、しかも、マッチの火が他に燃え移る恐れが無く発火させることができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案によるたばこ包装容器の要部の拡大斜視図、第2図は蓋を開いた状態の全体斜視

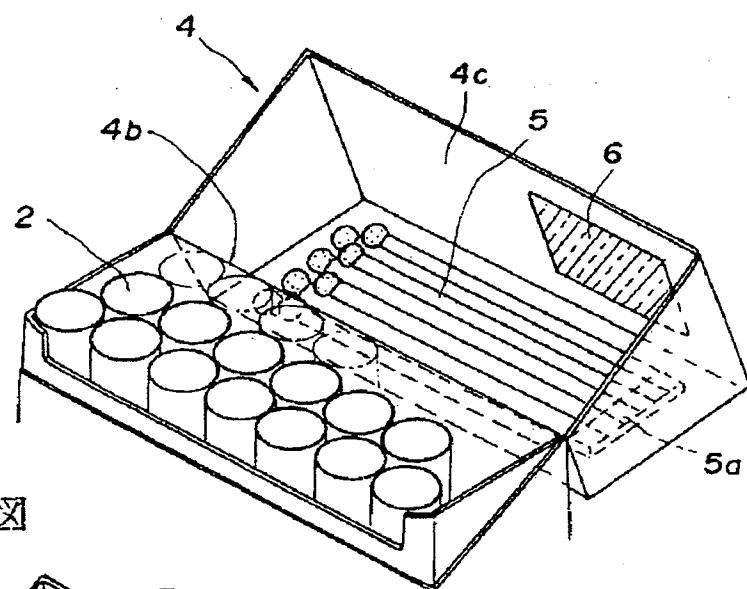
公開実用平成 3-43419

図、第3図は蓋を閉じた状態の斜視図、である。

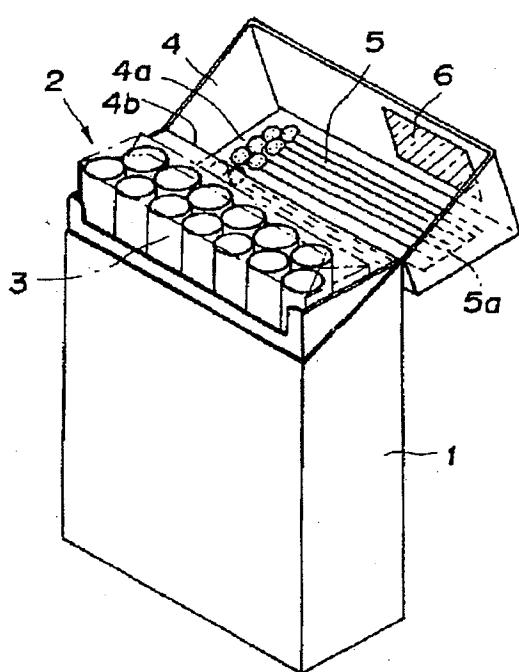
1 ……箱体、	2 ……たばこ、
3 ……銀紙、	4 ……上蓋、
4 a ……空間、	4 b ……ヒンジ部、
4 c ……側壁、	5 ……マッチ、
5 a ……マッチ基部、	6 ……マッチ擦材面。

代理人 弁理士 今 誠

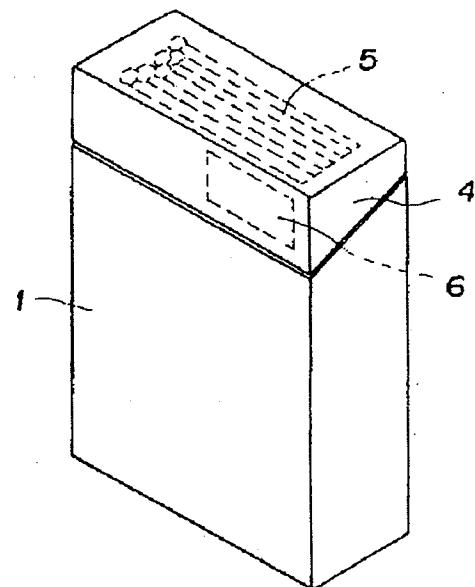
第 1 図



第 2 図



第 3 図



特許第43419